

子どもとともに環境と出会う

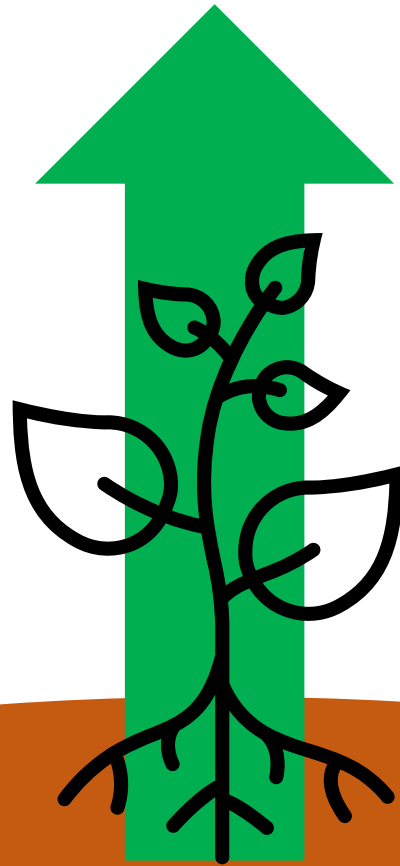


初めて環境に出会うとき

初めて環境に働きかけるとき

子どもの欲求や要求 ×

構成された環境
出会う環境



自ら環境を探索し
育つ子ども

養護と教育のための環境

子どもが安心して意欲的になれる環境

- 子どもが主体として受け止められていますか？
- ひとりひとりの心地よさの違いが保障されていますか？
- 生活の片隅の、子どもの感性や表現に耳を傾けていますか？

多様な遊びの資源としての環境

- 子どもにとっての遊びの選択肢はどのくらいありますか？
（素材、道具、場所、時間など）
- その環境で生まれる遊びは、子どもがほんとうにしたい遊びですか？
- 先生自身が楽しみながら、イメージを膨らませられていますか？
- 子どもはなんと言っていますか？

環境を通じた保育は
保育者の意図だけでは完結しない

子どもとともに出会う環境

年長がテラスで育てているプチトマトが赤くなってきた。何人かで熟したものをとっているところを見た年少さんが、自分もとばかりぷちっともぎ取ったのは青くて小さなトマト。「あー！」一瞬みんなの手が止まる。「おまえー！」とにらむ子、「あおいのとっても食べられないよ」と教える子、「せっかく育てたのにもう！」と大きな声を出す子、誰もが残念そうである。張本人も神妙な顔。

「ね、セロテープでくっつけよう」「ダメだよ、もうくっつかないよ」とケンケンガクガク。セロテープ派が優勢で、部屋からテープをもってきてとめた。

まさかと思っていた先生は数日後に、トマトが大きく赤くなっているのを発見。セロテープを外してみると、びっくり！

「あ、トマトがくっついてる！」

富田久枝ら著『持続可能な社会をつくる日本の保育ー乳幼児期におけるE S D』かもがわ出版,p.22-23より

コミュニティ = 多様な人とのかかわりで育つ

多様な感性

好奇心

多様な経験

あこがれ

多様な価値

つながり

子どもとともに環境と出会う心

「不思議」 金子みすゞ

私は不思議でたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

私は不思議でたまらない、
青い桑の葉たべている、
蚕が白くなることが。

私は不思議でたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりではらりと開くのが。

私は不思議でたまらない、
誰にきいても笑ってて、
あたりまえだ、ということが。